

## 雨水対策

市街化の進展や短時間の局地的な大雨（いわゆるゲリラ豪雨）の増加に伴い、既存の雨水排水施設で処理しきれず、都市内で浸水被害が頻繁に生じています。このような中、都市における水害から人命・財産や都市機能を守るため、総合的な浸水対策が求められております。本県においても、浸水被害が頻発しており、着実にハード対策を進める必要があることから、17市町村（令和2年度現在）で早期に浸水被害軽減を図る雨水対策事業を実施し、計画的・効率的に推進しています。



### 【100mm/h 安心プラン】

近年、ゲリラ豪雨により、浸水被害が多発していることから、局地的な大雨に対しても住民が安心して暮らせるよう、河川と下水道の連携によるハード整備や、住民の避難行動を支援するためのソフト対策により、住宅地や市街地の浸水被害等の軽減を図る必要があります。

100mm/h 安心プランは、この対策の1つとして、関係分野の行政機関が役割分担し、住民（団体）や民間企業等の参画のもと、住宅地や市街地の浸水被害の軽減を図るために実施する取組を定めた計画です。令和2年12月末で、全国で24件の計画が登録されており、県内では2件の計画が登録されています。

市町村	水系 / 河川	計画登録年月日
水戸市	那珂川水系 / 桜川（沢渡川）	平成30年1月31日
ひたちなか市	那珂川水系 / 中丸川，大川	令和元年9月20日

### 【下水道施設の浸水対策（耐水化計画）】

令和元年東日本台風では、河川の氾濫等の発生により下水道施設が浸水し、機能の停止によって住民生活に多大な影響を与えました。河川の氾濫等の災害時においても一定の下水道機能を確保し、下水道施設被害による社会的影響を最小限にするため、耐水化計画の策定及びハード・ソフトによる施設の浸水対策を進めています。



### 【雨水公共下水道】

もともと公共下水道により雨水排除及び汚水処理を実施することを予定していた地域のうち、汚水処理方式を見直して公共下水道による汚水処理を行わないこととした地域において、雨水排除のみに特化した下水道の整備を実施しています。

町村名	地区名	事業開始年度
鹿嶋市	荒野台東排水区 荒野台西排水区	平成29年度～

### 【流域治水プロジェクト】

気候変動による降雨量の増大や水害の激甚化・頻発化が予測されており、このような水災害リスクの増大に備えるためには、河川・下水道の対策に加え、流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策である「流域治水」を進める必要があります。県内では、7件の一級水系における流域治水プロジェクトが策定され、関係者が計画的に対策を進めています。

流域治水プロジェクト名
利根川・江戸川流域治水プロジェクト
中川・綾瀬川流域治水プロジェクト
鬼怒川流域治水プロジェクト
小貝川流域治水プロジェクト
霞ヶ浦流域治水プロジェクト
那珂川水系流域治水プロジェクト
久慈川水系流域治水プロジェクト

